

## 助成対象活動報告シート

助成メニュー： 構想づくり活動助成

団体名： 星崎学区連絡協議会

### 1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

- 地域の主体をつなぐ"場づくり"として、ぼうさいフェスティバルを開催し、消火器体験のほか、防災つりゲーム、防災クイズなど真剣の中にも楽しめるブースを設定し、大勢の人が参加し、お互い競い合いながらも顔の見える関係づくりが進められた。



- 重点取組みの一つである配慮を必要とする高齢者などの支援の方法について、自主防災会と民生委員の合同意見交換会を開催し、これまで以上に、より具体的に町内ごとの取組みが進み、お互いの協力体制が確立できた。



- これまで、3年かけて進めてきた星崎地区の将来のまちのあり方(構想)を考え、それを踏まえ「地区防災計画(風水害編)」を作成した。また、これまでの取組みの総括と、今後、どのように実践していくのかについて、三重大学大学院の川口教授から助言をいただいた。



## 2 活動の成果および目標達成度合い

- ◆ 「防災まちづくり構想」及び「星崎学区地区防災計画（風水害編）」については、参加者の熱心な議論により、非常に充実した内容とすることができた。
- ◆ この1年間、様々な機会、勉強会を通じお互いに顔の見える関係づくりを進め、特に、災害時要配慮者に対する「助け合いの仕組みづくり」については、ここ数年間の課題であった「要配慮者との関係づくり」「町内会員の間での課題の共有」が大いに前進した。
- ◆ 新たな担い手づくりについて、まちなかクイズラリー、防災フェスティバルなどを通じ取り組んだことで、積極的な関わりを持つ仲間が増えた。

## 3 活動により見えた課題

- ◆ 防災をテーマに、WSやDIGを重ねる中で、お互いの考えが理解できるようになり、まちの課題（ひとり暮らしの高齢者、空き家など）の共有は進んだが、より、深く、また継続的に維持していくためには、ファシリテートできる人材の育成が必要である。
- ◆ 担い手を育て次世代につなげていくためには、若い世代からの参画が得られるような取組み、積極的な広報を検討、強化する必要がある。

## 4 今後の活動等の展望

- ◆ 今後は、「星崎学区地区防災計画」を名古屋市防災会議に諮る準備を進める。
- ◆ 学区では、まちなかを活動の場と位置付け、ともに学び、ともに活動できるよう、地域の掲示板、回覧板、SNSなどを活用して地域活動の広報を充実するほか、地区の防災に関する施設、神社など様々な場所を巡って土地の成り立ちや災害リスクを知る「まち歩き」を実施することで、防災計画の実効性を高めていく。
- ◆ 地域の事業所との協働もより充実できるような仕組みを考えていきたい。

- ※ 「令和7年度 地域まちづくり支援制度 活動助成募集要項 成長支援・実践活動助成」のP.5「概要・趣旨」およびP.14の「メニュー別視点」を踏まえてご記入ください。
- ※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。
- ※ 用紙の大きさ日本産業規格A4とする。